

令和4年度

自己評価書(後期)

南アルプス市立芦安中学校

芦安中学校 自己評価書(後期)

令和5年1月30日(月)
南アルプス市立芦安中学校

1 自己評価(前期)の経過

- (1)後期教職員対象アンケート及び生徒対象・保護者対象アンケートの実施(12月)
- (2)アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議(1月)

※小中一貫校の取組の観点から、評価項目は基本的に芦安小学校との共通で実施。

2 学校評価の分析と課題点

【学校生活全般について】

前期同様に、生徒数の減少により、仲の良い友だちや相談できる同級生がいないことに不安を感じている生徒・保護者がいる。担任教員を中心に全教職員が連携して、授業時間以外の「スキマ時間(業前・業間, 給食後等)」にも生徒と関わる機会を積極的に持ち、指導・支援を行う。全教職員による生徒への組織的な支援を実現するために、個別の教育支援計画や支援シート等の活用も考えられる。

また、生徒同士の交流を深めるための活動(全校道德の実施やきずなの集い等のミニ集会)にも取り組みたい。

【授業・学習指導について】

前期同様に、教職員・生徒・保護者ともに、家庭学習に大きな課題があると考えている。今期は「芦安中・家庭学習の手引き」を改訂・活用して「家庭学習の改善・充実」を図ったが、十分とは言えない。今後も組織的・継続的な取り組みや手立てが必要である。授業ではICT機器等を積極的に活用したが、「ICTを使うことが目的」となってしまった場面もあった。端末等の機能を熟知し、「ICTの利便性」が実感できる取組を推進したい。また、ICT活用とは別に、学習の振り返りを確実に(学習の成果と課題を明らかにし)、生徒の「学ぶ意欲」を高めたい。

【学校・家庭生活&指導について】

養護教員による保健指導や給食担当による給食指導等により、基本的な生活習慣の定着については、前期よりも改善が見られた。個別の課題に対しては、それぞれの生徒の実態に合った指導助言を行っていく。上記の「家庭学習の改善・充実」に関しては、学習時間だけでなく、食事・睡眠・ICT機器活用時間等も含めた計画表を作成した上で家庭学習に取り組みさせることで、自身の生活習慣の見直しや改善につなげることができる。

【学校・保護者・地域連携について】

今期も、学校・学年だよりの発行、ホームページの更新等により、本校の教育活動についての情報発信・公開に努めた。また、保護者が来校する機会を利用して、教職員が生徒の様子を伝えたりした。今後も、個人情報を実実に保護した上で、より一層の情報提供・公開に努めたい。運動会や文化祭(白峰祭)等には地域の方々にも参加していただき、前期以上に、学校・保護者・地域の連携を深めることができた。

【特色ある取組・学校運営について】

芦安小中の特色ある取組(小中合同活動や地域人材を活用した取組)を進めることで、生徒の責任感やリーダー性、活動意欲等を高めた。また、英語活動に関しても、ICT を活用した研究授業、オンラインでの英会話授業(英語タイム)、小中合同のハロウィンパーティー(複数のALT が参加)等、「芦安郷育」の特色ある取組を実施できた。今後も英語活動のさらなる充実を目指したい。危機管理面では、避難訓練の方法を見直したことで、生徒・教職員の危機管理意識を高めることができた。

学校運営については、今後も、行事や取組等を常に見直し・改善を行う「カリキュラムマネジメント」に努めて、「コロナに強い芦安郷育」を実現させたい。

3 前期改善方策の進捗状況

★特色ある学校づくりを進め、魅力ある芦安中学校を実現する！

(1)ICT機器の積極的な活用等を通じた授業改善

「小・中による ICT を効果的に活用した授業づくり」を今年度の校内研究の柱としたことで、教職員の ICT 機器活用の意識を高まった。授業の中では、教材・資料提示、意見共有、発表、振り返り等で ICT 機器を活用できた。英語の授業や英語タイムでは、オンラインの活動にも取り組むことができた。ただ、ICT 機器等はあくまでも授業改善のためのツールであり、ICT 機器等を使うことが目的になってしまうと、授業効率も悪くなってしまう。教職員も生徒も、「ICT 機器を使うと便利」と思える取組を進めることが大切である。そのためにも、端末の機能(学習アプリ・文書作成・表計算・プレゼンテーション等)を熟知することが必要だと考える。そのための校内研修も進めていきたい。

ICT 活用以外の授業改善として、学習前の「めあての提示」と学習後の「振り返り」を確実に行いたい。振り返りによって、生徒自身が学習の成果や課題等、自分の学びの状況を把握でき、その後の学習に見通しを持って取り組むことができる。この活動を繰り返すことにより、生徒の主体性を育成していきたい。また、教員が生徒の学びの状況を把握することで、その後の指導にも生かすことができる。

※ICT 機器(端末や安全メールアプリ等)は、授業改善以外にも、特別な配慮が必要とされる生徒とその家庭との連絡ツールとしても活用していきたい。

(2)家庭学習の充実・基本的な生活習慣の定着

見直し・改訂した「芦安中 家庭学習の手引き」を活用して、家庭学習の充実を図ったが、アンケート結果からは、明確な効果は得られていない。今後も継続して取組を進めていく。具体的には、家庭学習の中に「読書」や端末を活用した課題(学習アプリ・画像や動画・日記等)を取り入れ、自主学習の幅を広げてみる。これまで紙媒体で取り組んでいた日記や作文等について、文書作成ソフトを利用して取り組ませる。書き直しや推敲等の作業が紙媒体よりも簡単にできる点が利点であり、しかも、端末内に保存しておくこともできる。家庭での端末の活用(端末の持ち帰り)に際しては、GIGAワークブックを活用した取組等の情報モラル教育の推進も必要となる。本校では、端末の使い方(ルール)については、12月の生徒総会の中で共有できている。

基本的な生活習慣の定着については、養護教員による保健指導や給食担当による食指導、各担任等による生活指導により、改善してきている。

(3)英語活動を含めた小中合同活動の見直し・改善

2学期(後期)には「学校林整備」や「サツマイモ栽培」等、これまで取り組んできた活動に加え、新たに「芦安ふれあい運動会」「芦安小中白峰祭」「小中合同太鼓」等の活動にも取り組んできた。新たに取り組み始めた活動については、細部で不明確な部分があり、小中間の調整・連携に腐心した。しかし、取組を進めていく中で、教職員も児童生徒も連携を深めることができた。これらの活動を通して、生徒はふだんの授業だけでは得られない達成感や自己有用感を味わうことができた。

英語活動の充実には、イングリッシュゲームやハロウィンパーティー等の小中合同活動を充実させることも大切だが、その前提として、普段の英語の授業も改善・充実させていく必要がある。具体的には、英語の授業に関しては、「All English」の授業を実施する。ALTの協力も得ながら、生徒の実態も考えて、段階的に、「All English」の授業につなげていく。また、英語の授業に限らず、他の教科等の授業でも、生徒の自主性や表現力等を育成する指導を心がける。

(4)前例主義に陥らない学校運営の実現

コロナ禍ではあるが、昨年度よりも多くの小中合同活動や学校行事等に取り組んできた。保護者や地域の方々が来校する機会が増え、教職員も保護者等と接する(情報伝達・情報共有する)機会も増えた。結果として、保護者等と学校の信頼関係が深まったことがわかる。(学校運営全般で、保護者アンケートにおいて、前期よりも評価点数が高くなっている。)改めて、保護者等に学校の取組や生徒の様子を直接見ていただくことの必要性を感じた。コロナ感染状況にもよるが、学校開放日等を設定し、保護者が来校する機会を増やすことも考えられる。ただ、その一方で、行事への準備等で教職員や生徒の負担も増し、進路や授業への影響も指摘された。取り組む時間は限られているので、「これまでと同じように」ではなく、常に行事等の精選や内容の見直しや会議・打ち合わせ等の効率的な運営(日課の工夫・資料のデジタルベ

一ス化等)を進め、教職員や生徒の負担を軽減していくことが持続可能な学校運営につながる。

学校の危機管理については、J アラート対応のマニュアルを作成し、教職員で共有した。避難訓練実施時には、予告なしの訓練、火災報知器や緊急地震速報を使った訓練等、災害に対する教職員・生徒の危機意識を高める工夫をした。また、訓練に際し、危機管理マニュアルの確認・見直しも行った。今後も、教職員・生徒の危機意識を高める工夫や取組を考えたい。